令和5年度　　学校評価書

東温市立西谷小学校

令和6年2月5日

1　学校の教育目標　　心豊かにたくましく生きるにしだにっ子の育成
2　経営の基本方針　　健康で明るく主体的に学ぶ児童の育成

	評価項目		評価の観点	評価（４段階） 教職員	児童	保護者	考察及び改善方策（○:考察、●：改善方策）	学校関係者評価委員の評価
生徒指導	**いじめ・不登校への対応**	1	**生徒指導体制づくりを行い、アンケートや教育相談、家庭との連携等をもとに、児童の心の状態の把握に努め指導に生かした。**	3.6	3.7	3.7	○　No.1の「児童の心の状態の把握に努め指導に生かした」については、教職員・児童・保護者の３者共に評価が高い。今年度も全教職員が連携を図って児童の様子をしっかり見取ったり、学校生活アンケートを活用したりして、気になる児童には教育相談等を行って早期解決を図った。家庭とも連絡を密にして、協力体制を整えながら対応することができた。 ●　No.2の「基本的生活習慣の定着」については、個人差が見られるため、今後も挨拶をすることの意義を伝え、お世話になっている方々にしっかりと気持ちを伝えることの大切さや規則正しい生活をし、自律した行動がとれる児童の育成を目指し、継続して指導していきたい。 ○　No.3の「逃げずに踏ん張る態度の育成」については、小規模校であり、児童数が減少しているため、運動会や水泳、陸上記録会、マラソン練習などの体育的活動や学習発表会の練習等を中心に個人として一人一人が踏ん張らないといけない場面が多く見られ、どの活動においても真剣に取り組むことができた。それぞれの活動を通して、何事も粘り強くやり遂げることの大切さについて指導をすることができた。	○教職員・児童・保護者の３者の評価が高く、ほとんどばらつきがなく、それぞれの思いが共通していることはとても良い状態である。 ○いじめ０で不登校児童も少ないことは、学校と家庭との信頼関係が築かれている証拠である。 ○いじめ等の発見は、家庭からも多いので、今年度から学期に１回、アンケートを家庭に持ち帰り、保護者と共に記入する方法は、とても有効な手段である。 ○何事も個々に目標を持たせて挑戦させていることが分かり、とても良いことだと思う。
	基本的生活習慣の定着	2	挨拶指導の継続、月目標の実践化、即時対応を心掛け、児童の基本的生活習慣の定着に努めた。	3.4	3.7	3.8		
	逃げずに踏んばる態度の育成	3	**多様な体験活動や根気強くやり遂げる経験を通して、逃げずに踏ん張る態度を育てるよう取り組んだ。**	3.5	3.5	3.7		
確かな学力を育てる教育	**基礎・基本の定着**	4	**学習形態や教具等の工夫、学習習慣づくりを行い、全員が活動して分かる場を設定した。**	3.1	3.2	3.5	○　No.4の「全員が活動して分かる場の設定」については、児童0.1、保護者は0.4ポイント上がった。コロナ感染症の５類への以降により、昨年度より多くの体験活動を実施することができたことで、少人数の特性を生かした個に応じた学習支援や小グループ等の形態を活用した練り合いの場を工夫しながら学習を進めることができたためと考える。 ●　No.5の「家庭学習の充実」については、児童・保護者の評価が低く、昨年度より児童の評価が0.1ポイント下がった。家庭での学習環境に格差が見受けられ、学習意欲が低い児童がいる。家庭での時間の過ごし方に課題があるため、引き続いて、家庭と連絡を取りながら連携を図り、効果的に学習できるように課題を選定したり、自己肯定感が高まるような評価を工夫したりするなどしていく必要がある。 ●　No.7の「間違いの多い問題を繰り返し学習する」については、児童の評価は0.1ポイント上がったが、変わらず低い。振り返りの際、苦手な問題を反復練習することができていないと感じる児童が多いためと考える。授業中、学び直しや復習の時間を確保できるように単元計画を見直したり、引き続き、個別に支援をする体制を整えたりするなど、全ての児童の学力の定着に向けて努めていきたい。 ●　全児童が、自信を持って達成感や自己肯定感を高めていけるよう、スモールステップの学習を取り入れていきたい。	○全教職員が、時間と手間のかかる複式の授業に丁寧に取り組んでおり、学力差のある児童がいる中で、細やかな指導を心掛けていただいている。 ○学習に対する意欲に個人差はあるが、自己有用感を高めるような取組や、自分の頑張ったことが周囲に認められるように、これからも継続していただきたい。 ○全体的に保護者の評価が教職員や児童の評価より高くなっており、教職員が真摯に取り組んでいると保護者に伝わっていると考えられる。 ○児童の評価が低いということは、見方を変えてみれば自己の振り返りがしっかりできているということでもある。
	家庭学習の充実	5	家庭学習の実施状況の把握、宿題の内容の検討、自主勉強の奨励、家庭との連携、個別の対応等により、家庭学習の充実を図った。	3.3	3.0	3.2		
	体験的な学習や問題解決的な学習の充実	6	問題解決的な学習や体験活動を展開し、学ぶ力を高めるよう取り組んだ。	3.3	3.2	3.6		
	学力向上推進	7	間違いの多かった問題に類似した問題を準備して、繰り返し学習させ、学力の定着に努めた。	3.4	2.9	3.6		
豊かな心と健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	8	教育活動全体と道徳の時間の関連を図る年間の計画をもとに、自己の生き方を見つめさせたり、家庭と連携を図ったりしてよりよく生きる態度を養った。	3.4	3.8	3.8	○　No.8の「道徳教育の充実」については、児童・保護者共に肯定的な評価になった。道徳の授業はもちろん、人権作文や標語の作成などの活動がよい影響を与えている。また、全教育活動において、教職員が児童の表現力及び、社会性を磨き、資質を向上させる意識を高く持ちながら、よりよく生きる態度の育成に努めることができた。 ○　No.10の「元気モリモリ貯金を通しての心の健康づくり」については、毎年、継続しての活動であるため、教職員・児童の評価が高い。健康で元気になる項目を設定し、毎週末、自分の取組に対しての評価を行い、元気の貯金を貯めるようにしている。取組への意識の高さに個人差が見られるという課題があるものの、昨年度同様、子どもたちに健康に対しての意識を高く持たせることができている。 ○　No.11の「体力づくりに取り組んだ」については、児童の評価が0.1ポイント上がった。東温市の水泳・陸上記録会、また、校内マラソン大会や縄跳びフェスティバルに向けて、熱心に練習に取り組んだことが高評価につながった。 ●　保護者の評価は相変わらず低い。社会現象になっているが、子どもたちが、家庭・地域に帰ってからの外遊びなどの運動が不足しているためと考えられる。今後も継続して家庭と連携・協力を図るとともに、生活の中での運動の習慣化を充実させるため取組の紹介や啓発に更に力を入れて取り組む必要がある。	○２月の参観日に学校保健委員会の取組で親子でできる運動を紹介すると聞いている。家庭でできる運動や体力づくりの紹介は、効果的な取組である。 ○家庭でできる運動（縄跳びなど）を宿題に取り入れてみるのも良いと思う。 ○縄跳び大会に向けて毎日練習するなど、学校が特化して取り組むことは、とても良いと思う。 ○「体力つくり」の項目は、児童と保護者の評価に格差が見られる。保護者の中には、運動をしないと体力がつかないと考える方もいると思うが、登下校の坂道を歩くだけでもかなり足腰が鍛えられる。是非、徒歩での登下校を勧めてほしい。
	仲間づくり・集団づくり	9	コミュニケーション能力の育成を図る年間の計画をもとに学級活動や学級経営、キラリン班活動等全校的な活動を充実してよりよい集団づくりに努めた。	3.4	3.5	3.6		
	心と体の健康づくり	10	元気モリモリ貯金を通して「早寝・早起き・朝ごはん」の定着、学校保健委員会の開催など年間を通した心の健康づくりに取り組んだ。	3.7	3.6	3.4		
	体力つくり	11	体育の授業を充実させたり、大会に向けた水泳練習、陸上練習、マラソン練習等を実施したりすることにより、体力づくりに取り組んだ。	3.3	3.4	3.1		
特別支援教育	特別支援教育の充実	12	校内の支援体制を充実し、全教職員や専門家との連携のもと、一人一人の教育的ニーズに応じて、必要な支援を行った。	3.9	3.5	3.4	○　No.12の「特別支援教育の充実」については、小規模校の特性を活かし、日々の活動において、全教職員が声を掛け、児童を見守り育てることができている。 ○　教職員は0.2ポイント、児童は0.3ポイント評価が上がった。特別支援学級だけでなく、配慮を要する児童に対して、今後とも家庭と連携を図りながら、全教職員がよりよい支援がとれるよう組織的な体制を整えていきたい。	○教職員の組織的な支援体制の整備や児童の情報共有の徹底、家庭との連携の充実、教職員一人一人の意識の高さが今回の結果につながっている。今後も組織的な支援をお願いしたい。
安全・安心な教育環境の整備	**登下校の安全確保**	13	**登下校の安全やマナーに対する指導、家庭・地域と連携した見まもり活動等の充実に努め、安全な登下校の奨励に取り組んだ。**	3.4	3.4	3.9	○　No.13の「登下校の安全確保」については、保護者の評価が0.3ポイント上がった。通学路を走る車やバイクに対して安全走行を喚起することや地域の防犯意識を高めるため、今年度、のぼり旗を設置していただけないか、生徒指導主事が東温市交通安全協会に依頼したところ、快く引き受け、設置していただいた。 ●　昨年度からの課題であるが、見守り隊が一部の方に固定化されており、もう少し人数が増えるよう、啓発の方法を工夫するなど、地域の方々へ御理解・御協力をお願いをしていきたい。 ○　No.14の「防災教育の充実」、No.15の「危機管理意識の高揚」については、３者共に非常に評価が高い。特に、児童、保護者の評価が高くなっており、学校や家庭、地域の安全への取組が家庭にも伝わっているという表れである。 ○　本校は防災士の資格を持っている教員の割合が高く、避難訓練において、地震・火災・不審者等、様々な状況を設定して実施することができている。今年度も地震と火災に併せて、引き渡し訓練、土砂災害の避難訓練を行った。どの訓練も高い意識を持って、確実に実施することができており、危機管理意識も高まっている。今後も、教職員がこれまでの経験を生かすとともに、研修などを通して、あらゆる有事に対して備えを怠らず、子どもたちの命を守ることが第一であるという意識を常に持ち続けたい。	○保免から学校までの一本道を登下校する児童が多いので、教職員等の車が横を通ることも見守りにつながっている。 ○全ての項目で保護者の評価が高いのは良いことだが、普段の登下校の様子を保護者の方にもしっかりと見ていただきたい。 ○年明けに発生した能登半島地震を教訓にし、常に最悪を想定し、いつ何が起きても対応できるように、シュミレーションをしておくことが大事である。 ○市内で参加した各会で、西谷校区での見守りをしていただけないか呼び掛け、活動サポーターの増員に努めている。
	防災教育の充実	14	避難訓練や学級活動、教職員研修を充実し、自ら判断し行動し、お互いが力を合わせて命を守り、困難を乗り切ることができる力を育むよう取り組んだ。	3.7	3.9	3.9		
	危機管理意識の高揚	15	**毎月の「にしだにハート＆はーと」や「交通安全・安全点検の日」を中心に、教職員の危機管理意識を高め、教育環境の整備をするとともに、児童の危機意識の高揚に努めた。**	3.7	3.9	3.9		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくり	16	コミュニティ・スクールの推進の基、地域との協力体制を充実し、地域・家庭と息の合った教育活動の充実に努めた。	3.3	3.8	3.6	●　No.16の「地域・家庭と息の合った教育活動の充実」の項目については、保護者の評価が0.1ポイント下がった。毎年行われている自然体験活動や稲作活動、三世代交流会等において、地域・学校・家庭とのつながりが深く、それぞれの活動を通じて、協力できた。しかし、コミスクの特性を活かした実践や地域を巻き込んでの活動に関して、ややマンネリ化していることも事実である。これまで以上に学校運営協議会との連携を充実させていくとともに、地域や保護者へコミスクの仕組みや実践の報告などを行い、周知していく必要がある。 ○　No.17の「情報の共有化」については、校報や学年便り、ホームページなどを活用して、活動内容や児童の様子を積極的に家庭にお知らせすることができた。特に、ホームページでは、ほぼ毎日、内容を更新し、タイムリーに学校の様子や子どもたちの活動などの情報を伝えている。多くの方に閲覧していただけるよう工夫改善を重ね、啓発していきたい。 ○　No.18の「幼稚園との連携」については、今年度から新しく取り入れた項目である。同じ敷地内に隣接しているため、互いに行き来しやすい環境にある。運動会や学習発表会、マラソン大会等の行事活動はもちろん、普段から気兼ねなく交流できるよう努めることができた。これからも互いに意識しながらよい関係を築き、子どもの教育の連続性を保障するとともに、教員同士の専門性を高めていけるよう交流を深め、幼・小の連携を大切にしていきたい。	○学習サポート等の地域ボランティアについて、新たな分野で模索していく手段や方法を共に考えていきたい。 ○ＨＰや学校便りを拝見するが、児童の活動の様子がよく分かり、学校の取組のすばらしさを感じる。 ○幼小連携の活動は、西谷では当たり前のように行われているが、他校にとっては決してできない、西谷ならではの大変すばらしい活動である。これらの活動を保護者や地域だけでなく、校区外へも発信し、今後の幼小の園児・児童数の確保や地域の活性化につなげたい。 ○自然体験学習などを通して、郷土を大切に思う心を少しでも学んでくれたらと思う。田植え体験など、できるだけ続けて子どもたちの思い出になればよいと思う。
	情報の共有化	17	児童について積極的に家庭と連絡を取り合ったり、学校の教育方針や教育活動等について、校報、各便り、HP等を活用して地域・家庭との情報の共有化に努めた。	3.4		3.5		
	幼小連携	18	幼稚園と小学校のつながりを深め、子どもたちの生活や学びの基盤を支えられるよう、隣接する幼稚園との連携を大切にし、交流に努めた。	3.7	3.4	3.8		
特色ある学校づくり	**「緑の少年隊活動」等を生かした地域とともに歩む教育**	19	**毎朝のボランティア活動を始めとする緑の少年隊の活動や各教科等での学習を生かし、自他の命を大切にしたり、身近な環境を大切さに気付かせたりするよう取り組んだ。**	3.7	3.7	3.9	○　No.19の「自他の命の大切さ」については、毎年、３者共に評価が高く、今年度は特に保護者の評価が高くなった。「緑の少年隊」の活動は、本校の特色であり、他の学校ではできない活動が充実している。教職員はもちろん、児童も様々な活動を通して、環境や生命の大切さに気付くことができている。そのことが、保護者にも伝わっている表れであると感じている。これまで以上に種から花苗を育て、校内だけでなく、通学路の路側帯に植えるなど地域の環境美化にも努めた。また、地域の協力を得て、稲作活動やシイタケ栽培などの多くの体験活動を実施できた。 ●　No.20の「自然体験教室の活性化」については、今年度は飲食を伴う活動も復活し、春はホタル・星空の観察、夏は七夕飾りとそうめん流し、秋は焼き芋・ツイストパン作りなど季節に合わせた内容を行った。多くの児童や保護者が参加し、充実した活動になった。しかし、その反面、常に参加する方とそうでない方の二極化も見られた。限られた条件の中で、多くの児童が参加でき、更に充実した活動となるように実施回数や内容等を検討して計画を立てていきたい。	○緑の少年隊の活動は、環境や生命の大切さに触れる取組であり、市内では西谷小と上林小の２校だけの貴重な活動である。是非、活動を続けていただきたい。 ○自然体験教室で食事関連の活動が復活でき、より子どもたちの笑顔があふれる取組になった。親子での共同作業も増え、親子のコミュニケーションが取れる、とても良い機会となった。 ○緑豊かな学校であるが故に、庭園等の敷地が広く、草刈りの作業も学校だけでは無理である。市の機関等で理解を得て定期的に外部のサービスを受けられるとよい。
		20	**学校と家庭と地域とが一体となって取り組む自然体験教室の活性化に努めた。**	3.4	3.5	3.5		
施設・設備の充実	教育機器の有効活用	21	一人一台タブレットパソコン等、ＩＣＴ機器の有効活用に努めた。	3.4	3.9	3.7	○　No.21の「教育機器の有効活用」については、児童が0.4ポイント、保護者が0.3ポイントと評価がかなり上がった。本校は教育機器が充実しており、各学年の授業において「ワイード」（黒板に投影できる機材）でデジタル教科書を投影して活用したり、大型テレビモニターを使用し、他校と通信したりして学習を行った。また、一人一台のタブレットパソコンを活用し、授業中、復習や調べ学習に活用したり、家庭への持ち帰った際、学習の振り返り等のコミュニケーションツールとして使用したりしたことが大きな要因であると考える。 ○　No.22の「調和と潤いのあるよりよい学校環境」については、３者共に評価が高い。緑の少年隊の活動にもつながっているが、教職員と児童の手で草花等を植え、大事に育てている。毎朝のボランティア活動（朝ボラ）で清掃活動や花苗の手入れを行い、夏休みには親子奉仕活動で溝掃除や草刈りをして、美しい環境を整えることができている。小規模校のため、少人数ながらも、緑化活動等に全児童と全教職員で取り組み、充実した環境を整えることができた。	○一人一台タブレットを使って様々なことに取り組んでおり、中学校でも参考にしたい。特に、他校とオンラインで学習を行っているので、詳しく教わりたい。 ○娘がタブレットを使ってまとめた内容を家に持ち帰ってきた。それを家族に自慢する姿が見られ、ＩＣＴ機器の活用能力が身に付いているのが分かる。 ○少人数にも関わらず、運動場には枯れ葉もなく、常にきれいに整備されている。花壇には、いつも花がいっぱいで美しい。日頃の努力は地域の方にも伝わっている。
	学習・生活環境充実への取組	22	人的管理・物的管理・事務処理に留意し、学校全体が、調和と潤いのあるよりよい教育環境となるよう取り組んだ。	3.6	3.7	3.7		

※　ゴシックは学校における重点項目、アンダーラインは重点項目に関連する内容